

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3670100712		
法人名	医療法人 松岡会		
事業所名	山城グループホーム		
所在地	徳島市山城西3丁目19番地		
自己評価作成日	平成24年10月4日	評価結果市町村受理日	平成23年4月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=36
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成24年12月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日、笑顔にあふれ明るい雰囲気の中で、家庭的な生活を送っている。家族様とのつながりを大切に、いつでも気軽に来所できる雰囲気作りを心掛けている。看護、医療、介護の面での連携はとてもスムーズで、住み慣れた当グループホームでの最期を望まれる家族も多く、スタッフ一同自信を持って取り組んでいる。また、職員の勤務年数も長く、居心地の良い施設、人間関係の良さが表れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、地域の季節行事等へ参加して住民との交流を図っている。また、事業所の有する認知症ケアの専門性や社会的な役割発揮のため、介護福祉士の実習生等を受け入れている。管理者と職員は、理念にそった支援に取り組んでいる。同一法人の運営する医療機関と連携を図り、24時間の対応が可能な体制を構築している。積極的に終末期の支援にも取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			南棟 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝申し送り時に、理念を唱和し、理念の実践に向けて、日々取り組んでいる。	利用者一人ひとりが住み慣れた地域のなかで安心して生活を送るよう支援することを事業所の理念に掲げている。管理者と職員間で理念を共有し、日ごろの支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の防災訓練、文理の学園祭、学生の実習やボランティアの受け入れをし、地元の人々と交流する事に努めている。	介護福祉士の実習生を受け入れ、人材育成に貢献している。音楽演奏等のボランティアの来訪がある。また、地域の防災訓練へ参加するなどして、積極的に地域との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者及び職員は地域の様々な研修、機会に関わりながら、認知症ケアの啓発に努めています。実習生の受け入れやデイサービスの利用者との交流も積極的に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者状況や年間行事計画を報告し、話し合いを行い、いろんな意見を出し合い、サービス向上につとめている。今年は南昭和シルバー・ハイツのオープンがあり、内覧会に参加して頂きました。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。事業所の現状報告や行事予定、利用料改定等の説明を行ったり、看護師による感染症や救急救命講習を実施したりしている。参加者から様々な意見を出してもらうなどして双方向的な会議の運営を行っているが、地域住民の参加を十分に得るまでには至っていない。	運営推進会議は、外部の人の目を通して事業所の取り組みや具体的な改善課題について話しあったり、地域の理解と支援を得たりするための重要な機会であることから、地域への働きかけを積極的に行い、より一層、地域住民の参加を得ることができるよう取り組まれない。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月1回ながいき課に出向き、顔馴染みの関係をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	定期的に市担当窓口へ出向いて利用者の現状を伝えたり、困難な事例の相談を行ったりしている。外部評価の結果や目標達成計画、事故報告等を提出してアドバイスをもらうなどして連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が、身体拘束の内容を把握し、身体拘束をしないケアをしている。	管理者と職員は、身体拘束の弊害を理解しており、拘束をしない支援に取り組んでいる。家族の同意を得たうえで、近隣の交番に利用者の住所や氏名、写真を提出して不測の事態に備えており、協力体制を築いている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で虐待が見過ごされることがないように、職員間どうしのコミュニケーションを図り、防止に努めている。虐待防止マニュアルを作成している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			南棟 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人制度を利用している入居者が1名おられ、全職員に制度について理解してもらい、後見人との連絡も密にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約する際は、利用者や家族に十分な説明を行ない理解納得をしていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	グループホーム玄関に意見箱を設置し、利用者からの意見・苦情があった場合、管理者・職員は、傾聴し、解決していくように努力している。	職員は、家族の来訪時に意見や要望を聞くように努めている。意思の表出が困難な利用者には、日ごろの関わりを通じて意向を推測し、速やかに対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、職員のミーティングを行っている。3事業所が合同で責任者会議を開き意見を交換し、向上に役立てている。職員から意見や要望がある時には、その都度聞き、話し合いの機会を作っている。	職員から出された意見やアイデアなどは、責任者会議で検討して運営面に反映させている。代表者とも話すことのできる機会を設けており、出された意見や提案を運営面へ取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員の意見や不満を聞きいれてくれる。常に代表者と職員が話し合いをもてる環境にある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じて研修を受け、法人内・外の研修もすすんで受けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修生の受け入れ施設として、他の施設の方々と交流を深めたり研修会などの活動を通じて情報交換し、サービスの質の向上をさせていく取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			南棟 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者からの相談があった場合は、ゆっくり耳を傾け話をし、受け止めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時より家族から困っている事・不安な事は親身になって聞き入れ、入所中も電話や面会時等に話し合い相談している。いつでも受け入れる努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホーム入居希望と伺っていた方が実際に会って話しをするととてもしっかりしていたので、家族にサービス付き高齢者向け住宅の見学をすすめてみると、とても気に入り、入居となる。家族にもとても喜んでもらっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者から、昔のことわざや慣わしを教えていただいたり、楽しいときはいっしょに笑え支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事の度に、家族も一緒に参加していただき共に楽しみ喜んでいただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元出身の利用者に関しては、近所の喫茶店に食事に出かけ昔話に花を咲かせ、途切れない関係づくりに努めている。	利用者は、同一法人の運営する他サービス事業所へ出かけ、友人や知人との交流を楽しんでいる。利用者の友人の来訪もあり、職員も加わってお茶を飲むなど、今までの関係を継続することができるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	だんらんの場でのその人それぞれの役割・居場所作りに関心掛け、利用者同士が支えあえる関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			南棟 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、その後利用者の紹介などの問い合わせをして頂いたり、断ち切らない付き合いを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食事が進まない利用者でお寿司が好きな方には近くのスーパーで夕食にお寿司を買ってきて食べて頂いたりしている。	利用者の言葉や表情等から、意向や希望を把握するように努めている。意思の把握が困難な方には、家族等から情報を得て本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者、個人個人の生活歴を大切にし、コーヒー好きで外出好きの方には、喫茶店へ行ってコーヒーを楽しんだり、うどんの好きな方はうどん屋さんに連れていったりしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身状態や生活リズムに合わせた支援をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、ケアカンファレンスを開催し、意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。家族から意見・要望を聞き、介護計画書に反映している。	毎月、カンファレンスを開催し、職員から出された気づきやアイデアを介護計画に反映している。また、利用者や家族の希望、体調の変化等に応じて、そのつど計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践等を個別記録・申し送りノートに分かりやすく記入し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービスと併設しているため、マッサージ器・カラオケ・慰問・誕生会等その時々に応じて柔軟な支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			南棟 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議においては、民生委員・包括センターの方に来て頂き、利用者と世間話等をして認知症に対しての理解・協力を深めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	忙しい家族に対しては、職員が病院受診に同行し、受診結果を家族に報告して本人及び家族の希望を支援している。	利用者一人ひとりのかかりつけ医を把握し、本人や家族の希望する医療機関の受診を支援している。家族の同行が困難なときは、職員が代行している。家族と職員間で受診結果等の情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝常勤看護師長に、状態報告をしている。褥瘡処置・点滴・受診時の付き添い等の支援をしている。夕方にも利用者の健康状態の様子観察をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した時には、職員交代で様子を見に行き主事医と情報交換や相談につとめている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態変化がある度に、医師・看護師・職員全体で話し合い、状態を家族に報告している。今後の変化に備えて検討や支援に取り組んでいる。	重要事項説明書に“看取りに対する考え方と指針”の項目を設け、契約時に本人と家族に説明し同意を得ている。医師と看護師で連携を図り、安心して終末期を迎えることができるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て、救命救急講習を毎年実施している。緊急時マニュアルを作成し、周知徹底を図っています。24時間院長及び看護師に連絡が取れる状態になっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施し、民生委員に参加して頂き協力を得ている。避難場所の地図を廊下に掲載し、常に目に付くようにしている。	年2回、消防署員の協力を得て、日中と夜間を想定した避難訓練を実施している。地域住民や民生委員の参加を得ている。水や食料等の備蓄も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			南棟 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人個人の自尊心を尊重するような声かけをおこなっている。	利用者一人ひとりの誇りを尊重した言葉かけや対応をするよう留意している。利用者の個人記録等も適切に管理するよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者にあわせて声かけをし、決めた事を押し付けるような事はせず、一人ひとりの利用者が自分で決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースにそって見守りながら生活を送り、体調に配慮しながら本人の気持ちを尊重し柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日頃から化粧やおしゃれを楽しんでもらっています。その他職員によるカット等を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在食事の準備を一緒に出来る利用者の方がいません。お盆を拭いて頂いたり、おしぼりを巻いて頂いたりしている。	利用者一人ひとりの力に応じて、食事の盛りつけや後片づけなどの役割を担ってもらっている。家庭的な雰囲気の中、利用者と職員は同じテーブルを囲んで楽しく食事をしており、自分で食べられない利用者にはさりげない態度や声かけで支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量をチェックし、職員が情報を共有している。発熱者がいる場合、特に水分補給に気をつけている。食事量の少ない方には、院長の指示により、栄養補助食品を摂ってもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声かけを行い、口腔ケアを実施している。就寝前には、義歯の洗浄を行っています。希望者には、歯医者さんに訪問してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			南棟 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導をし、トイレでの排泄を促している。利用者のそれぞれの排泄パターンを把握して、トイレ誘導をしている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。職員は、トイレでの排泄を大切に捉えて支援しており、利用者の誇りを損なうことのないような声かけや誘導に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	歩行訓練と適度な運動を実施し、自然排便を促している。希望の利用者には、毎朝ヤクルトを配達してもらい、飲んで頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一応、入浴日は決めています。入浴希望がある利用者については、いつでも入浴できるように支援し入浴拒否をされる利用者に対しては、声かけの工夫等で対応している。	毎日の入浴を支援している。利用者の重度化傾向に伴い、一般浴槽での入浴が困難であるが、同一法人の運営する他サービス事業所と連携を図って入浴の支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、1日の生活リズム作りをして、ゆっくり休息、安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をケース毎に整理し、職員が内容を把握できるようにしている。服薬時には、きちんと本人に渡し服薬確認および服薬介助をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりにあった楽しみや、役割を見つけて支援している。新聞を希望する人には、配達してもらっています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気分転換に近くの公園に散歩にでかけた。季節に応じてみかん狩り、お花見、イチゴ狩りなど楽しんでいる。	日ごろから、利用者は、近隣の公園や神社へ出かけている。家族の協力を得て、季節の花見やみかん狩りなどにも出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			南棟 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を持っている人と事務所で管理している人といいます。パン屋が来た時に自分で好きなパンを選び、購入している。また日用品等は、買い物に出かけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望があれば、事業所の携帯電話を使用し、人目をきこせず話をして頂いている。手紙等も出せる様に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	心地よい音楽を流したり、廊下には季節感のある利用者の写真等を掲示し、家具の配置は一緒に考え工夫している。中庭の月下美人の花が咲くのを楽しみにしている。	廊下の壁面には、利用者が生けた花を飾っている。畳の間を設けてあり、利用者が上り下りしやすい高さに調整するなどして、居心地良く過ごすことのできる家庭的な空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	窓際に椅子を置いて気の合う利用者同士で外を眺めたり、居室で仲のいい者同士おしゃべりをしたり、くつろげる場所を確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスや椅子など使い慣れた物を置き目覚まし時計・テレビ等を持ってきてもらっています。家族の写真等を置いている。	利用者は、衣装ケースや家族の写真、テレビなどを居室に持ち込んでいる。居室は整理整頓されており、清潔な空間となっている。ゆったりと座ることのできる椅子を持ち込むなど、落ち着いて過ごすことのできる居室の環境を整備している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・廊下・風呂場に手すりを取り付け、安全確保と自立への配慮をしている。台所の流し台の高さも利用者の使いやすい高さになっている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			西棟 実践状況	実践状況	実践状況
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝申し送り時に、理念を唱和し、理念の実践に向けて、日々取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の防災訓練、文理の学園祭、学生の実習やボランティアの受け入れをし、地元の人々と交流する事に努めている。町内会に加入し今年は秋祭りに参加させてもらい、お神輿によって頂いた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者及び職員は地域の様々な研修、会合に関わりながら、認知症ケアの啓発に努めている。実習生の受け入れやデイサービスの利用者との交流も積極的に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者状況や年間行事計画を報告し、話し合いを行い、いろいろな意見を出し合い、サービス向上につとめている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月1回ながいき課に出向き、顔馴染みの関係をつくり、市町村とともにサービスの向上に取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が、身体拘束の内容を把握し、身体拘束をしないケアをしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で虐待が見過ごされることがないように、職員間どうしのコミュニケーションを図り、防止に努めている。虐待防止マニュアルを作成している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			西棟 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人制度を利用している入居者がおられ、職員一同制度について理解し周知徹底している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約する際は、利用者や家族に十分な説明を行ない理解納得をしていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	グループホーム玄関に意見箱を設置し、利用者様からの意見・苦情があった場合、管理者・職員は、傾聴し、解決していくように努力している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回ミーティングや責任者会議を開き意見を交換し、向上に努めている。職員から意見や要望がある時には、その都度聞き、話し合いの機会を作っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員の意見や不満を聞きいれてくれる。常に代表者と職員が話し合いをもてる環境にある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じて研修を受け、法人内・外の研修もすすんで受けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修生の受け入れ施設として、他の施設の方々と交流を深めたり研修会などの活動を通じて情報交換し、サービスの質の向上をさせていく取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	西棟	自己評価	実践状況	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況		実践状況	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援								
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者からの相談があった場合は、ゆっくり耳を傾け話し、受け止めている。					
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時より家族から困っている事・不安な事は親身になって聞き入れ、入所中も電話や面会時等に話し合い相談している。いつでも受け入れる努力はしている。					
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時は、まず必要としていることを見極め対応に努めている。					
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様から、昔のことわざや慣わしを教えていただいたり、楽しいときはいっしょに笑え支えあう関係を築いている。					
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事の度に、家族も一緒に参加していただき共に楽しみ喜んでいただいている。					
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元出身の利用者様に関しては、近所の喫茶店に食事に出かけ昔話に花を咲かせ、途切れない関係づくりに努めている。					
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	だんらんの場でのその人それぞれの役割・居場所作りに関心掛け、利用者様同士が支えあえる関係づくりに努めている。					

自己	外部	項目	自己評価	西棟	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、その後利用者様の紹介などの問い合わせをして頂いたり、断ち切らない付き合いを大切にしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	偏食の利用者様にかんしては、特別なメニューを作っている。困難な場合には、本人と話し合い検討している。病院受診時にも職員が付き添っている。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様、個人個人の生活歴を大切に、毎朝お化粧をする人に支援し、コーヒー好きで外出好きの方には、喫茶店に出向きコーヒータイムを楽しんでいる。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身状態や生活リズムに合わせた支援をしている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、ケアカンファレンスを開催し、意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。家族から意見・要望を聞き、介護計画書に反映している。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践等を個別記録・申し送りノートに分かりやすく記入し、介護計画の見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービスと併設しているため、マッサージ器・カラオケ・慰問・誕生会等その時々に応じて柔軟な支援をしている。			

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			西棟 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議においては、民生委員や地域の交番の警察官・包括センターの方に来て頂き、利用者様と世間話等をして認知症に対する理解・協力を深めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	忙しい家族に対しては、職員が病院受診に同行し、受診結果を家族に報告して本人及び家族の希望を支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝常勤看護師長に、状態報告をしている。褥瘡処置・点滴・受診時の付き添い等の支援をしている。夕方にも利用者の健康状態の様子観察をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院した時には、職員交代で様子を見に行き主事医と情報交換や相談につとめている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態変化がある度に、医師・看護師・職員全体で話し合い、状態を家族に報告している。今後の変化に備えて検討や支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て、救命救急講習を毎年実施している。緊急時マニュアルを作成し、周知徹底を図っている。24時間院長及び看護師に連絡が取れる状態になっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施し、民生委員に参加して頂き協力を得ている。避難場所の地図を廊下に掲載し、常に目に付くようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			西棟 実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの自尊心を尊重するような声かけを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者にあわせて声かけをし、決めた事を押し付けるような事はせず、一人ひとりの利用者が自分で決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースにそって見守りながら生活を送り、体調に配慮しながら本人の気持ちを尊重し柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日頃から化粧やおしゃれを楽しんでもらっている。その他職員によるカット等を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛付け、片付け等共に行い、職員と一緒におやつ作りを楽しんでいる。食事は同じ物を一緒に、同じテーブルを囲んで楽しい雰囲気です。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量をチェックし、職員が情報を共有している。発熱者がいる場合、特に水分補給に気をつけている。食事量の少ない方には、院長の指示により、栄養補助食品を摂ってもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声かけを行い、口腔ケアを実施している。就寝前には、義歯の洗浄を行っている。希望者には、歯科受診に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			西棟 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導をし、トイレでの排泄を促している。利用者のそれぞれの排泄パターンを把握して、トイレ誘導をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	歩行訓練と適度な運動を実施し、自然排便を促している。希望の利用者には、毎朝ヤクルトを配達してもらい、飲んで頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一応、入浴日は決めているが、入浴希望がある利用者については、いつでも入浴できるように支援し入浴拒否をされる利用者に対しては、声かけの工夫等で対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、1日の生活リズム作りをして、ゆっくり休息、安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をケース毎に整理し、職員が内容を把握できるようにしている。服薬時には、きちんと本人に渡し服薬確認および服薬介助をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりにあった楽しみや、役割を見つけて支援している。新聞を希望する人には、配達してもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	心身の活性に外食・買い物・散歩等に出かけている。馴染みの喫茶店等に車椅子等が出かけ、近所の風景を楽しんでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			西棟 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を持っている人と事務所で管理している人といいます。パン屋が来た時に自分で好きなパンを選び、購入している。また日用品等は、買い物に出かけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望があれば、事業所の携帯電話を使用し、人目をきこせず話をして頂いている。手紙等も出せるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	心地よい音楽を流したり、廊下には季節感のある利用者の写真等を掲示し、家具の配置は一緒に考え工夫している。中庭の月下美人の花が咲くのを楽しみにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	窓際に椅子を置き、気のあった利用者同士で戸外を眺めたり廊下にソファを置き休息場所を確保している。時には、おやつも摂取してもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスや椅子など使い慣れた物を置き目覚まし時計・テレビ等を持ってきてもらっている。家族の写真等を置き、しきび・ご飯・お茶をまつている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・廊下・風呂場に手すりを取り付け、安全確保と自立への配慮をしている。台所の流し台の高さも利用者の使いやすい高さになっている。		